



笑顔がつながる、
未来がひろがる。

IWAHORI

岩堀建設工業株式会社 〒350-0041川越市六軒町1-3-10 TEL. 049-225-5111 <http://www.iwahori.co.jp>

P&D グループ



p&d consulting
株式会社 ピーアンドディーコンサルティング

「豊かさの創造」
ステークホルダーと豊かな関係を築き、
豊かな地域の創造・発展に寄与します。



UNICUS
毎日を、もっと便利に、もっと楽しく



ユニクス川越



ユニクス南古谷

ユニクス野田/ユニクス伊奈/ユニクス成田/ユニクス上里/ユニクス高崎
ユニクス秩父/ユニクス鴻巣/ユニクス吉川/ユニクス浦和美園

<http://www.pdconsul.co.jp>
<http://www.unicus-sc.jp>



世界を変えた歴史的な事件から一世紀。レーニン誕生の地を本拠地とする楽団が贈る、ロシア革命100周年記念公演！



オレグ・ズヴェーレフ (指揮)

ロシア国立ウリャノフスク交響楽団

with 神尾真由子

2017年11月19日(日) 開場13:30 開演14:00 ウェスタ川越 大ホール

主催: 指定管理者 NeCST (ネクスト) 後援: 川越市、川越市教育委員会、小江戸川越観光協会、ロシア連邦文化省、ロシア連邦文化協力庁、
駐日ロシア連邦大使館、ロシア文化フェスティバル組織委員会、日本・ロシア音楽家協会

チャイコフスキー

バレエ音楽「眠れる森の美女」組曲 Op.66a より 序奏ーリラの精の踊り
ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 Op.35（ヴァイオリン・ソロ：神尾真由子）
…………… 休憩 ……………

バレエ音楽「くるみ割り人形」組曲 Op.71a

バレエ音楽「白鳥の湖」組曲 Op.20a

プロフィール



©Shion Isaka

神尾真由子（ヴァイオリン）

MAYUKO KAMIO, Violin

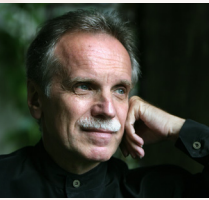
4歳よりヴァイオリンをはじめる。2001年ニューヨークでデビュー、ニューヨーク・タイムズ紙で「輝くばかりの才能」と絶賛される。2007年に第13回チャイコフスキー国際コンクールで優勝し、世界中の注目を浴びた。これまで、国内の主要オーケストラはもとより、チューリヒ・トーンハレ管、ロシア・ナショナル・フィル、BBC響、BBCフィル、ブダペスト祝祭管、バイエルン州立歌劇場管、ベルリン・ドイツ響、ラハティ響などと共演。指揮者では、C.デュトワ、M.ロストロポーヴィチ、E.インバル、V.スピヴァコフ、V.アシュケナージ、J.ピエロフラーヴェク、I.フィッシャー、T.ソヒエフ、O.カムらと共演している。近年では、Z.メータ指揮 ミュンヘン・フィルと南米ツアー、F.-X.ロト指揮南西ドイツ放送響と日本ツアー、L.モルロー指揮イスラエル・フィルとイスラエル・ツアーを行った。サン・モリッツ、コルマル、ヴェルピエなどの著名フェスティヴァルにも出演。また、ソリストとして、ニューヨーク、ワシントン、サンクトペテルブルク、モスクワ、フランクフルト、ミラノなど世界各地でリサイタルを行っている。レコーディングではRCA Red Sealレーベルより最新CD「ヴァイオリン・アンコール」を含む5枚をリリース。大阪府知事賞、京都府知事賞、第13回出光音楽賞、文化庁長官表彰、ホテルオークラ音楽賞はじめ数々の賞を受賞している。使用楽器はストラディヴァリウス1731年製”ルビノフ”を宗次コレクションより貸与されている。



ロシア国立ウリャノフスク交響楽団

ULYANOVSK STATE ACADEMIC SYMPHONY ORCHESTRA

1968年に設立のロシア国立ウリャノフスク交響楽団は、ロシアでもっとも有名なオーケストラの一つとして、その地位を確立している。ヴォルガ川のほとりに位置するこの大都市（モスクワから東に約600km）を訪れた客演者には、ヴァレリー・ゲルギエフ、マリス・ヤンソンス、ユーリ・テミルカーノフ、ウラディーミル・フェドセーエフなどのロシアの最高の指揮者たち、および、ソリストとして度々共演してきたムスティスラフ・ロストロポーヴィチらがいる。さらにエフゲニー・キーシン、デニス・マツォーフ、ナターリヤ・グートマン、セルゲイ・ナカリャコフ、ディミトリー・ホロストフスキーなど、数多くのアーティストたちが共演し、この一流のオーケストラの高い芸術性を評価している。102人の楽員たちが、レーニンおよびゴンチャロフの故郷であるウリャノフスクで年間60回以上のコンサートを行っている。彼らは海外でもツアーを行っている（中国、ドイツ、フランス、スペイン、スイス、北欧諸国など）ほか、モスクワ、サンクトペテルブルク等、多くのロシア連邦の都市の音楽祭でコンサートを行い、各地で称賛を得ている。ロシア国立ウリャノフスク交響楽団は、「アカデミック・オーケストラ」および「政府所属のオーケストラ」という名誉称号を授与されている。エドワルド・セーロフ、ニコライ・アレクセイエフ、セルゲイ・フェルリヨフの後、ロシア連邦の名誉ある音楽家オレグ・ズヴェーレフが2012年9月以来、同オーケストラの音楽監督兼首席指揮者を務めている。



オレグ・ズヴェーレフ（音楽監督・首席指揮者）

OLEG ZVEREV, Music Director & Principal Conductor

2012-2013シーズンより、ロシア国立ウリャノフスク交響楽団の音楽監督兼首席指揮者を務めている。現代の偉大かつ国際的に名高いロシアの指揮者たち同様、彼も権威あるサンクトペテルブルク音楽院出身である。バルナウルにあるアルタイ国立交響楽団の首席指揮者を務めた後、1990年から2009年までイルクーツク・フィルハーモニー管弦楽団で音楽監督兼首席指揮者を務めた。ズヴェーレフの首席指揮者就任以来、ロシア国立ウリャノフスク交響楽団は、モスクワの音楽雑誌“KULTURA”なども称賛するように、ロシアでもっとも傑出したオーケストラの一つに成長した。大編成のオラトリオ・コンサートにおいて、ズヴェーレフは、有名なロシア国立聖歌隊やロシア国立アカデミー・アレクサンドル・ユルロフ合唱団、ベラルーシ国立聖歌隊、さらに海外では日本の石川県の合唱団と共演している。客演指揮者として、ズヴェーレフは日本、オーストラリア、ドイツ、ポーランド、アメリカ、スイスを訪れている。ロシアでは、サンクトペテルブルク・フィルハーモニー交響楽団、モスクワ放送交響楽団、サンクトペテルブルク・リムスキー・コルサコフ歌劇場管弦楽団、オムスク交響楽団等を指揮。彼はまた、サンクトペテルブルクのムソルグスキー歌劇場、ノヴォシビルスク歌劇場でも指揮している。1996年、名誉あるロシア連邦芸術家勲章を授与された。

曲目解説

オール・チャイコフスキー・プログラム

P.I.チャイコフスキー（1840-1893）

バレエ音楽「眠れる森の美女」組曲 Op.66aより 序奏-リラの精の踊り

クラシック音楽では、ベートーヴェンらが活躍した古典派からシューマン、ブラームスらのロマン派へ、という歴史の流れがあるが、バレエの世界ではロマン派(ロマンティック・バレエ)から古典派(クラシック・バレエ)へと変遷していく。ロマンティック・バレエが興ったフランスでは、ロマン主義の衰退と共にバレエ芸術も同様の道を辿ったが、ロシアでは独自の発展を遂げ、より高度な踊りが組み込まれ様式化されたクラシック・バレエが完成した。キャリアの盛期を迎えていたチャイコフスキーは“三大バレエ”と称される本日演奏される3作品を作曲、時代を超える傑作として今日まで親しまれている。ディズニー作品でも有名な「眠れる森の美女」は、17世紀フランスの詩人ペローによる「ペロー童話集」に収められている。チャイコフスキー49歳頃の作品。1890年1月に、サンクトペテルブルクのマリンスキー劇場にて初演を迎えた。

ヴァイオリン協奏曲 ニ長調 Op.35

第1楽章:アレグロ・モデラート-モデラート・アッサイ 第2楽章:カンツォネッタ アンダンテ 第3楽章:アレグロ・ヴィヴァーチェッシモ

ベートーヴェン、メンデルスゾーン、ブラームスの作品と並び、“四大ヴァイオリン協奏曲”とも称されるほど人気・評価の高い作品。当初ロシアの名ヴァイオリニスト レオポルト・アウアーに献呈され、初演も予定されていたが、出来上がった作品をアウアーが酷評、初演も拒否してしまった。さらに、アウアーの代わりに演奏したアドルフ・ブロッキーの初演も大変な失敗に終わった。しかし、ブロッキーが様々な地で繰り返し演奏をし続けたことで次第に作品の真価が認められ、今日の人

バレエ音楽「くるみ割り人形」組曲 Op.71a

第1曲：小序曲 第2曲：行進曲 第3曲：金平糖の精の踊り 第4曲：ロシアの踊り
第5曲：アラビアの踊り 第6曲：中国の踊り 第7曲：葦笛の踊り 第8曲：花のワルツ

作曲家晩年の傑作。死の前年、1892年12月に初演された。18世紀ドイツの作家、ホフマンによる「くるみ割り人形とねずみの王様」を原作とした、クリスマスの物語。チャイコフスキーは台本が持つ幻想的な雰囲気を保ちつつ、絢爛豪華な交響楽作品として仕立て上げた。優美且つ明確なメロディが各曲を性格付けしつつ、本日のような演奏会形式で通して奏されることで作品自体の創造的構想力が姿を現す。

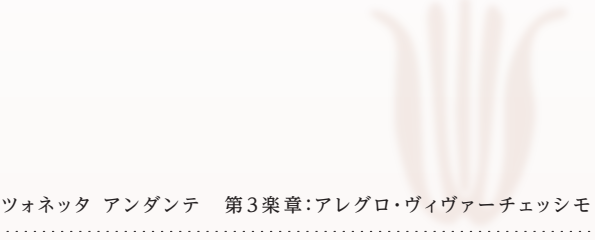
バレエ音楽「白鳥の湖」組曲 Op.20a

第1曲：情景 第2曲：ワルツ 第3曲：四羽の白鳥たちの踊り 第4曲：情景
第5曲：ハンガリーの踊り「チャールダーシュ」 第6曲：情景（フィナーレ）

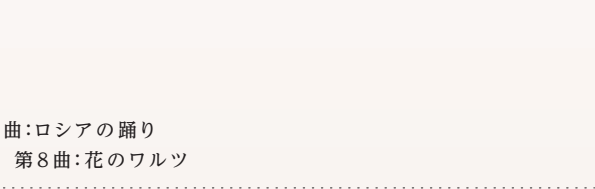
“三大バレエ”の1作目に位置する、チャイコフスキー36歳頃の作品。帝政ロシア下でクラシック・バレエを完成させた、マリインスキー劇場のバレエ・マスター、マリウス・プティパが振付を施した。フランス人のプティパとのコラボレーションは3作を通じて続くこととなる。当時のチャイコフスキーは「ピアノ協奏曲第1番」「交響曲第1番」「第2番」「第3番」や幾つかの管弦楽曲を既に手掛けており、ロシアロマン派の交響楽を体現する存在でもあった。本作においても、フランスのロマンティック・バレエの音楽とは一線を画したオーケストラ音楽が全編に渡ってドラマティックに展開する。

【ストーリー】

オーロラ姫の誕生。妖精たちが贈り物を届ける。しかしその場に招かれなかった邪悪な妖精が突如現れ、姫に死の呪いをかける。別の妖精が慌てて「姫は死ぬのではない。100年の眠りにつき、王子の口づけによって目覚めるのだ」と宣言する。ある日、姫は誤って針手に刺し、城全体が100年の眠りについた。100年後、デジーレ王子が姫を見つけ、美しさに驚いて思わず口づけをすると、城は目を覚ました。お祝いの舞踏会には赤ずきんちゃん、シンデレラ、長靴をはいた猫、親指小僧なども勢揃い。

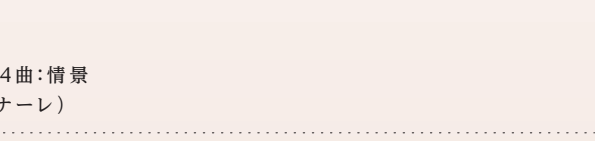


気につながっている。作品は三楽章からなる。全体の半分以上を占め、雄大で華やかな第一楽章、カンツォネッタ（小さな歌）とも題される、優美な緩徐楽章の第二楽章、そしてロシアの民族舞曲トレパークに由来する躍動感あふれる第三楽章と、チャイコフスキーの旋律の美しさ、そしてヴァイオリンの技巧を十分に堪能できる作品である。



【ストーリー】

クリスマス・イブの夜の物語。クララはプレゼントにくるみ割り人形をもらう。その夜、クララが目を覚ますと、くるみ割り人形とネズミの戦いの最中だった。クララの加勢によって人形は勝利する。すると人形は王子に変身、お礼にクララをお菓子の国に招待した。雪道を辿り、二人は美しい城に到着。舞踏会が開かれ、夢心地の中、様々な踊りが披露される。



【ストーリー】

ジークフリート王子とオデット姫の悲恋の物語。魔法によって白鳥に変えられた姫を救えるのは、王子の愛の力のみ。しかしそこに立ちほだかる魔法使いの計略により、騙された王子はあろうことか魔法使いの娘に愛を誓ってしまった。絶望の姫、追いかける王子。そして二人は荒れ狂う湖水に身を投げる。やがて静まった湖面。白鳥たちが音もなく遠ざかっていく。